

8/5 栃木県を代表して関東大会に出場 親園中学校ソフトボール部・野球部表敬訪問



親園中学校ソフトボール部と野球部の代表者6名が市長を表敬訪問しました。選手からは県予選大会で、共に準優勝を成し遂げた報告と、関東大会への意気込みを語っていただきました。その後、ソフトボール部は関東大会で第3位となり、全国大会への切符も獲得しました。これからの更なる活躍が期待されます。

8/6 聞いて、触れて、学ぶ！ 大田原市森林教室を開催



森林環境譲与税による事業の一環として、小学生を対象に森林教室を開催しました。参加した約80名の子どもたちとその保護者は、森林資源の循環に関する木育講座や、木片を使った自由工作、大田原市森林組合の協力による森林クイズを楽しみながら森の営みや大切さを学びました。

8/6 関東での活躍を誓う 那須野ヶ原FCボンジボーラ 表敬訪問



那須野ヶ原FCボンジボーラの選手が市長を表敬訪問しました。県予選大会で好成績を残し、関東地区大会への出場の報告と、意気込みを語っていただきました。その後、那須野ヶ原FCはこの大会で優勝し、全国大会への切符を獲得。全国大会では3位の好成績を収めました。これからの更なる活躍が期待されます。

8/7 将棋文化を活かしたまちづくりのために 秋田マテリアル株式会社からの寄附



秋田マテリアル株式会社(秋田県にかほ市)から令和4年度より3回目となる、企業版ふるさと納税による寄附をいただきました。秋田マテリアル株式会社は本市にある那須マテリアル株式会社(北金丸)の関連会社です。今回の寄附は、10月12日④に開催される「全国将棋サミット2024」事業に活用させていただきます。

8/10 発酵の食文化が息づくまちづくり みそ玉づくり体験会



大田原市発酵のまちづくり推進協議会主催による「みそ玉づくり体験会」を、トコトコ大田原で開催しました。今回の体験会では味噌と出汁素材を混ぜ合わせた「みそペースト作り」に取り組み、参加した児童たちは、複数の味噌を試食した後、好みの味噌と出汁素材をブレンドし、オリジナルのみそペーストを作りました。

8/17 地域の誇りと絆を胸に 「大撿縄引き」5年ぶりの開催



今年度より閉校した旧佐良土小学校を会場に、5年ぶりに「大撿縄引き」が開催されました。「大撿縄引き」は国選択無形民俗文化財に指定されており「盆引き」とも言われる伝統行事です。当日は、地域内外の方々が会場に訪れ、東西に分かれ大きな掛け声と共に大縄を引き合い、会場は熱気に包まれました。

8/15 8/17 夏の夜空彩る 11,000 発
黒羽花火大会・佐久山納涼花火大会

大田原の夏の風物詩「黒羽花火大会」および「佐久山納涼花火大会」が、今年も開催されました。

15 日開催の「黒羽花火大会」では、6,000 発の花火とともに、約 80 店の出店や各種イベントが会場を盛り上げました。

また、台風の影響で 17 日開催となった「佐久山納涼花火大会」では、約 500 個の燈籠流しの後、5,000 発の花火が打ち上げられました。

それぞれの大会を合わせて、合計 11,000 発の花火が大田原の夏の夜空を彩りました。



8/23 選手のさらなる飛躍を期待して
大田原市内小中学生全国大会・関東大会結果報告会



スポーツ競技の全国大会や関東大会に出場した大田原市内の小中学校 71 名の児童・生徒が参加し「結果報告会」が開催されました。市長からは大舞台での選手たちの更なる活躍を期待して激励のメッセージが贈られました。

8/25 清流那珂川で鮎を釣る
第7回芭蕉の里くろね那珂川レディース鮎釣り大会



8 月 25 日に女性限定の鮎釣り大会が那珂川河川公園で開催されました。初心者でも気軽に参加できるように道具一式を貸し出し、地元のベテラン釣り人がインストラクターとして参加する本大会には、県内外から計 64 名が参加し、清流那珂川で釣果を競いました。今年の優勝者は 8 匹を釣り上げました。

8/27 長寿を祝して
敬老祝い記念品の寄贈



市内の肖像画家 益子 学司 氏と増村園芸(南金丸)の増村 英樹 氏が市内の高齢者への敬老祝い記念品の寄贈のため、市長を訪問しました。

益子氏からは市内で 2 番目の高齢の方へ肖像画(最高齢の方には寄贈済み)を、増村氏からは 100 歳以上の高齢の方へケイトウの寄せ植えをご寄贈いただきました。

『国道461号ラベンダーロード計画』

投稿者：国際医療福祉大学 国道 461 号
ラベンダーロード計画代表 藤井 幹雄

国際医療福祉大学では、高いリラククス効果のある香りを放つラベンダーを本学南門前の国道461号中央分離帯に植栽する活動を行っています。

この活動は、令和5年4月から、毎月第1、第3、第5土曜日に学生と教員の共同作業により実施しており、これまでに約400本のラベンダーを植えました。興味のある方は、私たちと一緒に植栽作業をしてみませんか。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

問 国際医療福祉大学薬学部准教授 藤井 幹雄

TEL 0287-24-3541



『みんなのひろば』投稿募集

問 情報政策課 6階 TEL 0287-23-8700
✉ jouhou@city.ohatawara.tochigi.jp

●応募方法

Eメールに写真を添付し、本文に次の①～⑥を記入して情報政策課にお送りください。

①コーナー名

- ・我が家の『○○』(家族や自慢のレシピなどの紹介)
- ・いいとこ撮り(市内の風景・イベント写真の紹介)
- ・大田笑人(市内で活躍する個人・団体の紹介)

②写真のタイトル

③コメント(200文字程度)

④氏名とペンネーム(本名掲載を希望の場合は不要)

⑤住所(番地も記入。紙面には大字のみ掲載します。)

⑥電話番号

●注意事項

- *原則として受付順に掲載しますが、応募多数の場合は過去に一度も掲載されていない方を優先します。
- *掲載回数の上限は1人につき月1回かつ同一年内3回までとし、2号連続しての掲載は行いません。
- *掲載された場合の謝礼はありません。

※詳細は、市HPをご覧ください。



市史編さんだより vol.48

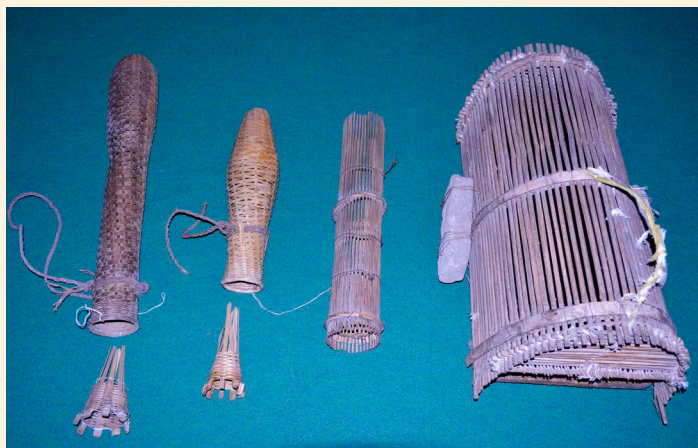
民俗部会調査速報⑮ ～ウナギウケ・ドジョウウケ・カニウケ～

今回紹介する資料は、那珂川や箒川などの河川や用水路などで、ウナギやドジョウ、モクズガニをとる際に用いられた各種のウケです。これらは川漁師の人たちが専業として使用した道具とは異なり、農村地域の主に少年期の男子が親や友人と魚とりを楽しんだ、どちらかという遊びの要素が加わった形で利用されてきたものです。捕獲された魚は貴重なタンパク源として食事のおかずや酒の肴として食用にされたほか、一部は川魚店に買い取ってもらったという話も残っています。

ウケの素材には竹や篠竹が用いられていますが、製作技法によって2つに分類できます。まずは、基本的にはざると同じ技法で作られている一群で、竹を割りやや太めで平たく長いヒゴ6本を芯材として、そこに細いヒゴや薄く平たいヒゴを交互に編み込み、細長い円筒形に編み上げられたものです。もうひとつは、竹を角棒状に整えたヒゴや細い篠竹を麻紐などで編み込んですこの子状にし、その両側を結んで円筒状やカマボコ状にしたものがあります。

いずれのウケにも、カエシと呼ばれる中に入った獲物が逃げられないようにする部品が付属しています。ドジョウやカニなどのウケにはカエシは1か所、ウナギの場合は2か所に装着する場合があります。ウナギやカニの場合は、ミミズやアユ、小魚などを餌として詰めました。

(民俗部会 上野 修一)



左から：ウナギウケ・ドジョウウケ2種類・カニウケ
長さは各60cm・40cm・50cm・62cm

問 文化振興課 A別館2階

TEL 0287-47-5031